

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 39 週(9 月 21 日～ 9 月 27 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 保健研究センターだより 10 月 ～新型ノロウイルスが大流行の兆し～

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	1.65	(2.18)	➡	➡	➡	⬇
2	RS ウイルス感染症	1.06	(0.82)	⬆⬆	⬆⬆	➡	⬇
3	A群溶連菌咽頭炎	0.76	(0.71)	➡	⬆	➡	⬇
4	手足口病	0.62	(0.82)	⬇	⬇	⬇	⬇
5	突発性発しん	0.38	(0.44)	⬇	⬇	⬇	⬇

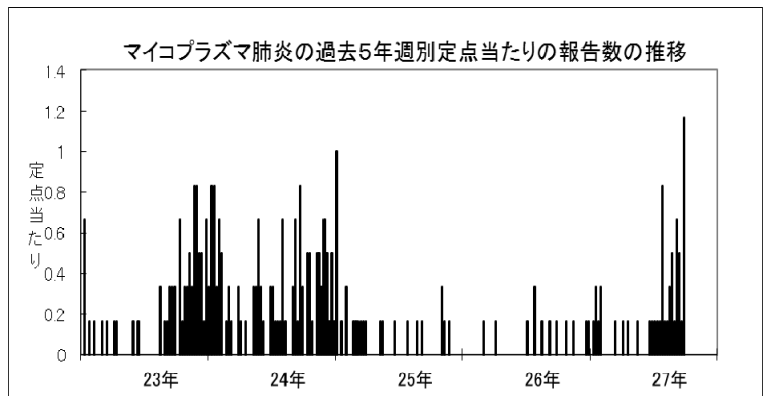
発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **⬆⬆**急増、**⬆**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**↘**やや減少、**⬇**減少

◆ 県内概況 ◆

第 39 週は連休で診察日が限定されていたため、全体的に患者数は少なくなっていますが、RS ウイルス感染症は例年どおり増加しており、これから冬に向けて更に増加すると思われます。RS ウイルスは、特に乳児期早期(生後数週間～数カ月間)が感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。咳等の呼吸器症状がある年長児や成人は、可能な限り0歳児と1歳児との接触を避けることが乳幼児の発症予防に繋がります。

また、マイコプラズマ肺炎の報告が続いており、第 39 週は定点当たり報告数が 1.17 と、過去 10 年間のうち最も多くなっています。通常、晩秋から早春に報告が増加し、数年ごとに流行を繰り返します。

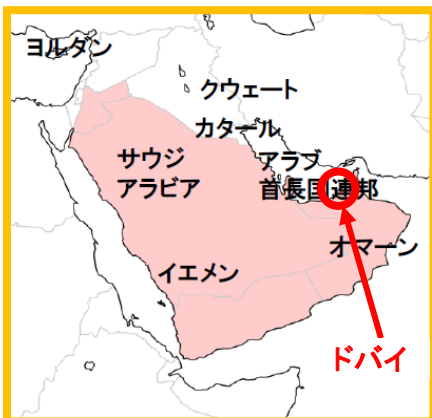
基本的な感染予防対策(手洗い・うがい・咳エチケット)を心がけましょう。



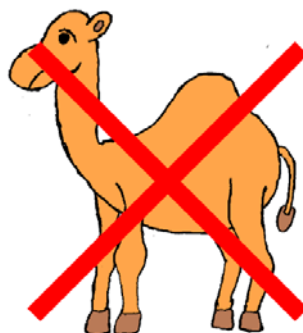
中東呼吸器症候群(MERS)

《注意》 MERSが発生している中東諸国で、**患者**や**ラクダ**と接触した方は、感染の可能性があるため、**検疫所が最大14日間の健康監視(※)を行う**場合があります。
 (※検疫所に毎日体温等の健康状態を報告いただきます。)

ラクダとの接触や未殺菌のラクダ乳の摂取は自ら危険に近づくようなものです!!



【発生が報告されている中東諸国】



ラクダなど、動物との接触や殺菌されていない乳や肉の喫食を避けましょう!!

【入国時に検疫所で】

発熱や咳などの呼吸器症状がある方や MERS が疑われる患者又はラクダと接触した可能性がある方は、必ず、検疫官にお申し出ください。

【入国後症状が出たら】

入国後 14 日以内に、発熱や咳などの呼吸器症状がみられた方は、速やかに電話にて最寄りの保健所にご連絡ください。

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 27 年 第 39 週 9 月 21 日 ~ 27 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	54	11	16	11	11	2	3	
インフルエンザ	1 (0.02)			1 (0.09)				
小児科定点数	34	7	10	7	7	1	2	
RSウイルス感染症	36 (1.06)	5 (0.71)	20 (2.00)		11 (1.57)			
咽頭結膜熱	6 (0.18)		3 (0.30)		1 (0.14)		2 (1.00)	
A群溶連菌咽頭炎	26 (0.76)	8 (1.14)	10 (1.00)	3 (0.43)	5 (0.71)			
感染性胃腸炎	56 (1.65)	7 (1.00)	15 (1.50)	16 (2.29)	17 (2.43)	1 (1.00)		
水痘	9 (0.26)	5 (0.71)	2 (0.20)	1 (0.14)	1 (0.14)			
手足口病	21 (0.62)	10 (1.43)	7 (0.70)	1 (0.14)	2 (0.29)	1 (1.00)		
伝染性紅斑	7 (0.21)	2 (0.29)	4 (0.40)	1 (0.14)				
突発性発しん	13 (0.38)	7 (1.00)	2 (0.20)	4 (0.57)				
百日咳								
ヘルパンギーナ	4 (0.12)	1 (0.14)	1 (0.10)		1 (0.14)	1 (1.00)		
流行性耳下腺炎	3 (0.09)	1 (0.14)	1 (0.10)			1 (1.00)		
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎							-	
流行性角結膜炎							-	
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎	1 (0.17)		1 (0.50)					-
無菌性髄膜炎								-
マイコプラズマ肺炎	7 (1.17)		7 (3.50)					-
クラミジア肺炎								-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)								-

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核5件(奈良市1、郡山2、中和2)
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 1件(中和1) 腸チフス1件(郡山1)
4類感染症	
5類感染症	

❖ 第 39 週のトピックス ❖

ノーウオクウイルス(ノロウイルス)の遺伝子型(2015年改訂版)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/norovirus-m/norovirus-iasrs/5913-pr4274.html>

カレーチェーン店従業員における腸チフス単発症例の報告

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/1011-disease-based/ta/typhi/idsc/iasr-in/5944-kj4271.html>

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。
旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

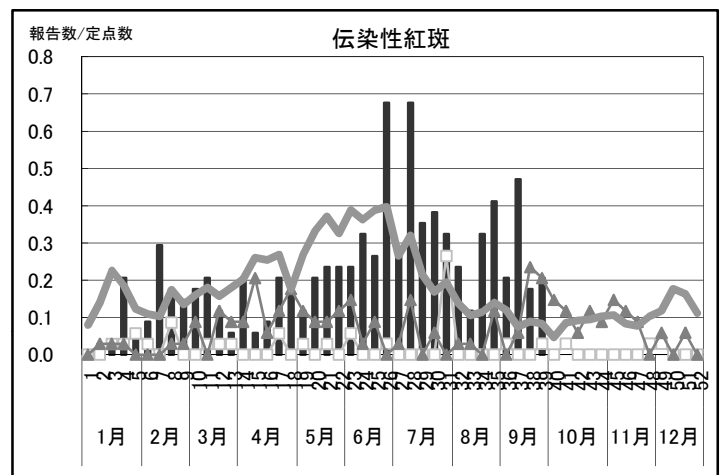
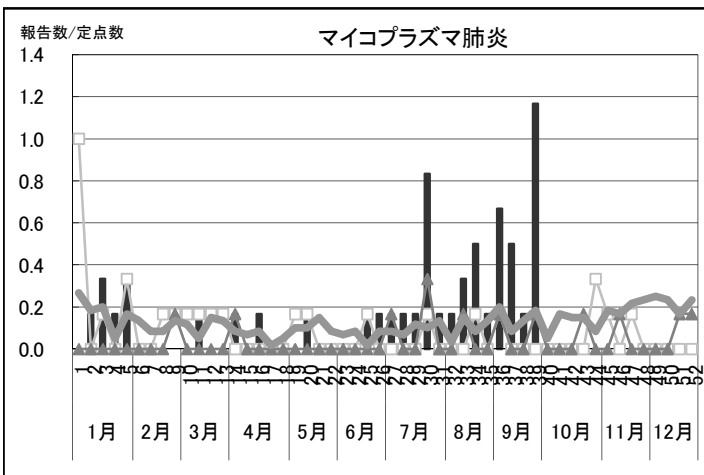
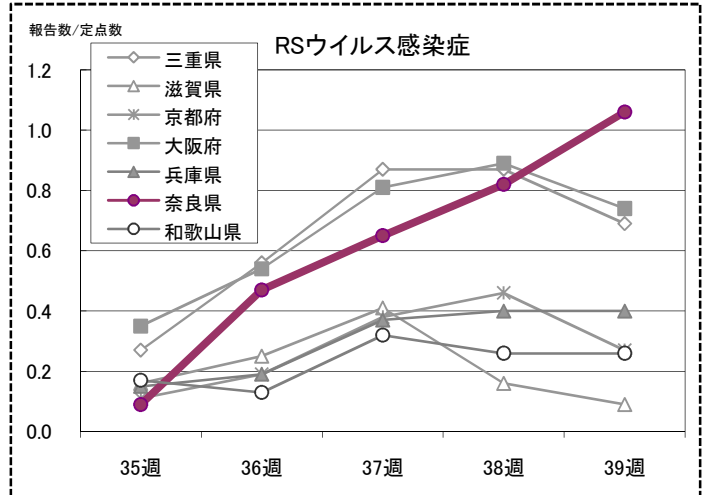
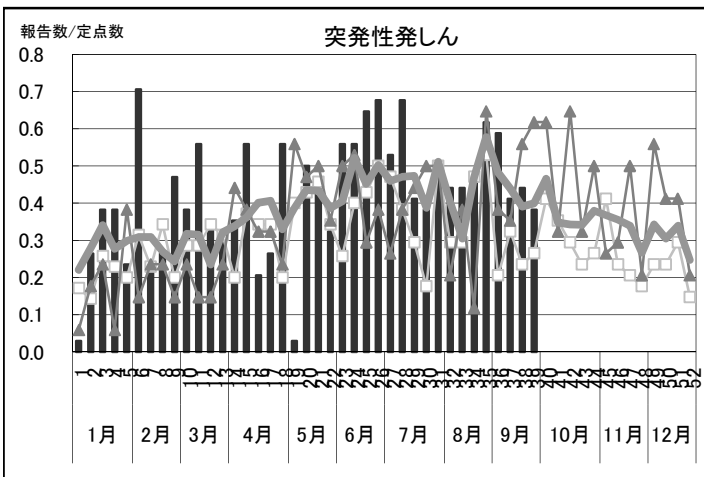
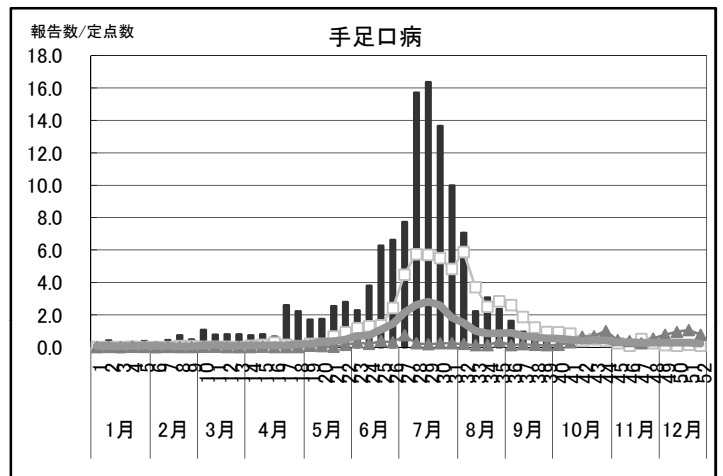
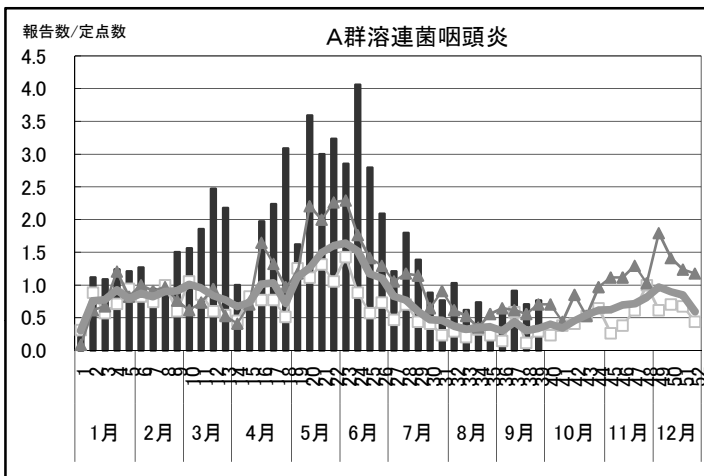
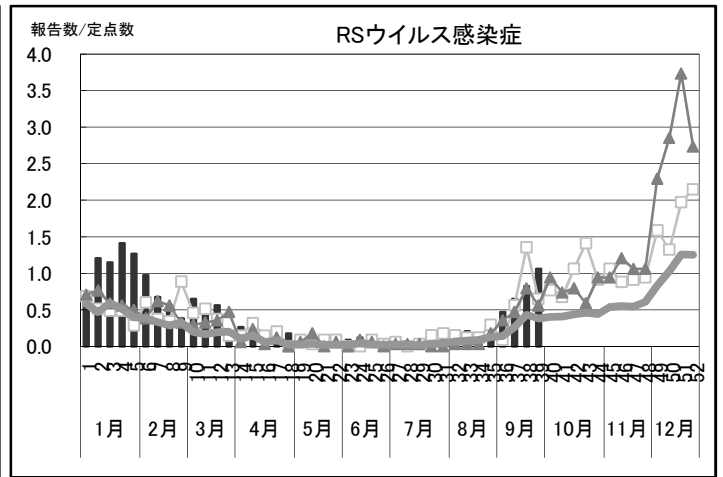
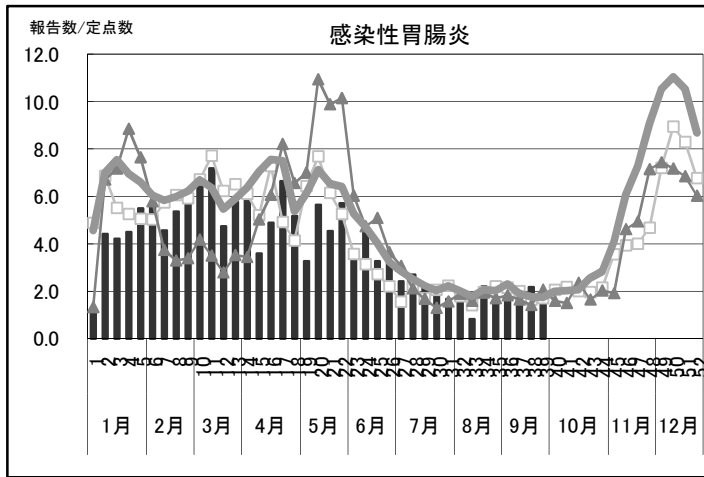
上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	合計	累計		
インフルエンザ	男																					1	3978	
	女				1																		1	3996
RSウイルス感染症	男	2	4	9	2		1	1														19	265	
	女	3	2	10	1	1																17	255	
咽頭結膜熱	男						1	1														3	237	
	女			1		1				1												3	198	
A群溶連菌咽頭炎	男			1	1	1	2		1	2	1	1	1	2								13	1126	
	女			1	1	1	2	3	2		1	1	1		2							13	966	
感染性胃腸炎	男		1	8	4	3	3	2	1	1	1	3	6	1	4							38	2659	
	女		2	4	2	3		1		1			5		1							18	2473	
水痘	男				1	1	1		1													3	191	
	女	1						1	3													6	185	
手足口病	男		1	4	2	1	1	2	1													12	2277	
	女		2	2	1	2		1					1									9	1921	
伝染性紅斑	男						1	1	1													2	141	
	女				1			1	1				1	1								5	157	
突発性発しん	男		2	5	1																	8	294	
	女		2	1	1			1														5	268	
百日咳	男																						5	
	女																						4	
ヘルパンギーナ	男			1																		1	345	
	女			1	1				1													3	311	
流行性耳下腺炎	男							1														1	78	
	女												1									2	86	
急性出血性結膜炎	男																						3	
	女																						2	
流行性角結膜炎	男																						56	
	女																						51	
細菌性髄膜炎	男																					1	4	
	女				1																		5	
無菌性髄膜炎	男																						1	
	女																						2	
マイコプラズマ肺炎	男		1	1																		2	21	
	女		1	2				1							1							5	22	
クラミジア肺炎	男																						1	
	女																							
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						60	
	女																						48	

❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

■ H27 ▲ H26 □ H25 〰 過去10年平均



新型ノロウイルスが大流行の兆し

国立感染症研究所の調査から昨年冬から国内で流行を引き起こしている多くのノロウイルスが、新たな遺伝子型「GII.17」であることが明らかになりました。GII.17は中国南部で発見されたウイルスで、2014年9月から2015年3月に江蘇省で23事例のノロウイルス集団発生のうち16事例がGII.17が原因であったほど中国では流行しています。ノロウイルスは一本鎖RNAのため変異しやすく、GII.17もヒトへの感染のしやすさに関わる部分に変異しており、免疫を持つヒトがほとんどいません。そのため大人も子どももGII.17に感染しやすい状況なのです。

奈良県では、2014年秋頃から冬にかけてGII.3の検出数が多く、冬から春先にかけてはこれまで世界的に流行しているGII.4でした。GII.17は今年の1月に検出して以降、ピークが過ぎる4月までの月別の検出数の30～60%を占めるほど検出数は増加しています(表参照)。この流行する遺伝子型の移り変わりは、近畿全体でみても奈良県と同様の変化を示しています。

表. 検出したノロウイルスの遺伝子型解析結果

	GI.2	GI.3	GI.4	GII.3	GII.4	GII.13	GII.17
2014年9月							
10月				2			
11月				8	1		
12月				15	3		
2015年1月				2	6		5
2月	1			1	3		4
3月	2	1	1		2	2	3
4月	1				1		3
5月	1	1		1			
6月		1		1			
7月						1	
8月							

※集団発生、散発を含む。いずれも1とカウント

ノロウイルスは、2004年に国内で死亡例を含む大流行が発生し大きな社会問題となりました。その後も2004年に流行したウイルスとほぼ同型ウイルスが、2006年には過去最悪とも言われる大きな流行を引き起こしました。

今冬季のノロウイルスの流行は、これまでに流行した型に加えて新たに変異を起こしたGII.17による感染が広がる可能性が危惧され、2006年以来の大きな流行になる恐れがありますので十分な警戒が必要です。

◆参考ホームページ

国立感染症研究所

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/norovirus-m/775-idsc/1538-noro-detect.html>

厚生労働省検疫所

<https://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name08.html>

厚生労働省 感染症情報

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/norovirus/>



ウイルス・疫学情報担当